

フジ・メディア・ホールディングス
CSRレポート2020

2019.4～2020.3

FUJI
MEDIA HOLDINGS
CSR REPORT 2020
2020 CSR REPORT

フジ・メディア・ホールディングス

フジ・メディア・ホールディングスは、
メディア・コンテンツ、都市開発・観光、その他からなるメディアグループです。

3つのセグメント

メディア・コンテンツ			都市開発・観光	その他（新規含む）
フジテレビ	共同テレビ	ポニーキャニオン	サンケイビル	フジミック
ニッポン放送	FCC	フジパシフィックミュージック	グランドスタホテル&リゾート	フジキャリアデザイン
BSフジ	フジアール	フジゲームス	サンケイビルマネジメント	FCI
仙台放送	FMT	クオラス	サンケイビルテクノ	
扶桑社	NEXTEP	ディノス・セシール		

CSR活動方針 [CSR = Corporate Social Responsibility 企業の社会的責任]

フジ・メディア・ホールディングスは、多様な事業活動を通じて社会へ貢献するとともに、視聴者・聴取者・読者・利用者・消費者の皆様等の顧客満足度の向上、経営環境の変化に対応した新たな企業価値の創造と持続的な成長をめざしています。また、グループ・ガバナンスの構築、グループ・コンプライアンスの確保を図り、適時・適切な情報開示を行っています。

活動体制

ホールディングス各社のCSR担当役員から構成される「CSR推進委員会」を年に1回開催しています。またその下部組織「CSR推進連絡会議」を年4回開催し、CSR活動の報告や今後の展開を議論しています。



フジテレビジョン / BSフジ / ニッポン放送 / 仙台放送 / 共同テレビジョン / フジクリエイティブコーポレーション / NEXTEP / フジアール / フジ・メディア・テクノロジー / ポニーキャニオン / フジパシフィックミュージック / ディノス・セシール / クオラス / サンケイビル / 扶桑社 / フジミック / エフシージー総合研究所 / フジキャリアデザインの18社とフジ・メディア・ホールディングス

計19社

SDGs達成に向けた取り組み

SDGs (Sustainable Development Goals) 持続可能な開発目標は、貧困、環境、人権など地球規模の様々な課題を解決するための17の目標のことで、2015年に国連で採択されたもので2030年までの解決をめざしています。フジ・メディア・ホールディングス傘下のフジテレビ、BSフジ、ニッポン放送は、「SDGメディア・コンパクト※」に署名し、メディアの発信力を活かし現状を「伝える」ことで、世界を「変える」きっかけづくりに努めています。



※SDGメディア・コンパクトについての詳細は6ページをご覧ください。

フジ・メディア・ホールディングスは、2018年4月より 国連グローバル・コンパクトに署名しています

企業は利益を追求する以前に、良き市民であるべきという考え方のもと、責任のある「企業市民」として、世界で起きている様々な問題を解決するために行動することが求められています。国連グローバル・コンパクトは、国連が提唱する人権・労働・環境・腐敗（強要や贈収賄など）防止に関する普遍的な10原則を守ることを「約束」するものです。1999年の世界経済フォーラム（ダボス会議）において提唱されたもので、2020年3月時点で世界約160ヶ国・約13,500の団体（そのうち企業は約10,100）が署名し、「人権」「労働」「環境」「腐敗防止」の4分野・10原則を軸に活動を展開しています。日本国内では2020年4月23日時点で359の企業・団体が署名しています。



重点的に取り組む課題 ～自社の事業活動と関連性があるもの～

子どもたちのために

未来を担う若い世代を
応援します。



復興支援・防災

クリエイティブな力で
被災地の復興をめざします。



共生社会をめざして

全ての人が生きづらさを
感じない社会をめざします。



地球環境のために

放送や自社の事業を通じて
環境への負荷を減らします。



パートナーシップで目標を達成する

SDGsの課題解決にはあらゆるステークホルダーの参加が不可欠です。
「情報伝達の媒介者」であるメディアは、パートナーシップを生むためのきっかけづくりを行います。



フジ・メディア・ホールディングス CSRレポート2020 編集方針

2019年度に行ったCSR活動をまとめたものです。主たる事業である放送とエンターテインメントを通じて、多岐にわたる活動を行ってきました。本レポートはそれらを皆様にご理解頂きやすいよう編集し、まとめたものです。
ご意見、ご感想等ございましたらお寄せ下さい。なお、ホームページでもCSRに関する情報を開示しています。

■対象期間 2019年4月1日～2020年3月31日（※一部この期間以外の情報も含んでいます） ■発行日 2020年7月15日

ホームページ <https://www.fujimediahd.co.jp/csr/> フジ・メディア・ホールディングス CSR推進室 csr.ss@fujitv.co.jp

TOP MESSAGE

持続可能な社会の実現に向けて

～グループ各社で発信～

株式会社フジ・メディア・ホールディングス
代表取締役社長 兼 COO

金光 修

President and COO
Osamu Kanemitsu



フジ・メディア・ホールディングスのCSRレポートをご覧頂きありがとうございます。

当社グループは、放送をはじめとするメディア・コンテンツ、都市開発・観光など幅広い領域で事業を展開するとともに、文化・芸術を通じた社会貢献にも積極的に取り組んで参りました。

そのひとつに、芸術の分野で優れた功績をあげた方に贈られる「高松宮殿下記念世界文化賞」があります。1988年の創設時から、フジテレビをはじめグループ各社が様々な面で運営サポートを続けており、31回目となった2019年は坂東玉三郎さんが受賞したことも話題となりました。

また環境問題に熱心に取り組む企業や団体を顕彰する「地球環境大賞」では、当社グループの多くの会社が運営に参画し、地球規模での環境保全や循環型社会の実現をめざす活動を応援しています。

放送・映像音楽・通販・広告・出版・都市開発・観光など私たちの事業は多岐にわたりますが、日々の業務の中で芽生える「社会をより良くしたい」という思いは皆同じです。

2019年度も被災地への支援をはじめ、地球環境や未来を担う子どもたちに向けた活動など、事業上の強みや多彩なマンパワーを活かした多くの活動を行いました。社会の様々な課題を認識し、共に解決をめざす取り組みは、私たち自身の心を豊かにし、グループとしての結束もより強めるものと実感しております。

多くの人々にとって幸せな社会があつてこそ、私たちの会社も事業を継続できます。より良い社会の実現のために当社グループはこれからも視聴者の皆様、お客様と共に歩んで参ります。

CSRスローガン



フジ・メディア・ホールディングスは
多様なメディアの集合体です。

各社業態は異なりますが、
共通する思いは「創造する力」を通じて
人と人をつなぎ笑顔をつくること。

社会の一員として
どんな社会課題の解決に結びつけられるかを
常に考え、行動し続けます。

CONTENTS

特集 5-6

SDGsの課題解決に向けた取り組み

- フジテレビ 『フューチャーランナーズ〜17の未来〜』
- BSフジ 『知りたい! SDGs』
- ニッポン放送 「May I Help You?」キャンペーン



フジ・メディア・ホールディングス 共通の活動

- 東京2020参画プログラム・合同清掃活動 / ライトアップ / みんなのメダルプロジェクト 7
- ラジオ・チャリティ・ミュージックソン / FNSチャリティキャンペーン 8
- サザエさん募金 / ふくしま浜街道・桜プロジェクト / ブックフォースマイル 他 9
- 高松宮殿下記念世界文化賞 / 地球環境大賞 10



フジ・メディア・ホールディングス 各社の活動

● 子どもたちのために 11-13

あなせんプロジェクト
ハロー! どっこくん
テレビ局のお仕事体験
体験型教育プログラム フジテレビのお仕事!
ウミガメ移動教室
エコキッズ探検隊2019
『グータッチ』
ドラマ甲子園 ヤングシナリオ大賞
武蔵野大学寄附講座 未来型都市とメディア
そらぶちキッズキャンプ



● 災害復興支援・防災 14-16

ずっとおうえんプロジェクト
こども笑顔プロジェクト
東北・みやぎ復興マラソン
読み聞かせキャラバン
『“死者”ゼロを目指せ
〜デジタル新時代の情報発信とは〜』
『わ・す・れ・な・い』 『ともに』
『明日への羅針盤』 『バイキング』 『東北魂TV』



● 共生社会をめざして 17-19

『パラ☆DO! 真ん中』
HANDSIGN
『アキレアの橋〜遥かなる東京へ〜』
『ニッポンチャレンジドアスリート』
コンテンツにおけるバリアフリー
『にっぽんの要〜わかる・かわる介護・福祉〜』
ピンクリボン運動への賛同
第11回港区文化芸術フェスティバル
厚生労働省ハラスメント対策サイト
健康本の発行



● 地球環境のために 20-21

『環境クライシス』
『アースウォーカー』
『地球環境大賞2019特別番組』
各社本業を通じた環境への取り組み



● マネジメント体制 / 財務サマリー 22

特集 SDGsの課題解決に向けた取り組み



フジ・メディア・ホールディングスは、各社CSR担当部署を中心にSDGs※の課題解決に取り組んでいます。特にメディアの発信力を活かし現状を「伝える」こと、また課題について知ってもらい、世界を変えるきっかけづくりに力を入れています。

※SDGs (Sustainable Development Goals)

持続可能な開発目標は、貧困、環境、人権など地球規模の様々な課題を解決するための17の目標のことです。2015年に国連で採択されたもので2030年までの解決をめざしています。



■ いま地球で何が起きているの？ 私たちひとりひとりができることは？

SDGsをテーマにした地上波レギュラー番組を放送

『フューチャーランナーズ～17の未来～』

テレビの強みである「発信力」と「クリエイティブ能力」を活かして、SDGsに特化したミニ番組『フューチャーランナーズ』を2018年7月から制作・放送しています。課題解決に向けて熱心に取り組む人たちの紹介することで、SDGsを身近に感じてもらうとともに、多様な活動が認知されパートナーシップを生むきっかけになればという思いで制作しています。



- フジテレビ (関東ローカル)
毎週水曜 22:54～23:00 放送
- BSフジ (全国)
毎週土曜 21:55～22:00 放送

● 放送内容



NPO法人「TABLE FOR TWO international」
大宮千絵さん 2019年12月25日放送

番組では未来に目を向け、今、自分たちができることに懸命に取り組む国内外のNPO、個人、学校現場等の取り組み等をSDGsのターゲットとともに紹介しています。

2020年3月末までに**77回**放送

紹介例

- 建築家 坂茂さん
- ミライロ 垣内俊哉さん
- AfriMedico 町井恵理さん
- 大川印刷 大川哲郎さん
- WASSHA 秋田智司さん etc.

● 番組サイトですべての放送を配信

<https://www.fujitv.co.jp/futurerunners/>

より多くの方に見てもらいたいとの思いから、放送時から英語字幕を付けて放送しています。



● ニュースサイト

「FNNプライムオンライン」で
放送内容を記事化し発信

<https://www.fnn.jp/subcategory/SDGs>



● 第2回ジャパンSDGsアワード パートナーシップ賞受賞

[2018年12月]



● 官邸の英語版SNS「Japan Gov」で紹介

首相官邸の海外向けFacebookとTwitterに当番組が取り上げられました。[2019年12月7日]



BSフジ・ニッポン放送が国連「SDGメディア・コンパクト」に署名

「SDGメディア・コンパクト」は、世界中のメディアやエンターテインメント企業に対し、その資源と創造力でSDGs達成のための活動を促すことを目的とした協力推進の枠組みで、国連が2018年9月に発足させたものです。2018年にフジテレビが署名し、それに続きBSフジ、ニッポン放送も署名。メディアの持つ発信力でSDGsの課題解決に努めることを約束しました。



2018年12月 フジテレビ署名
2019年11月 BSフジ署名
2020年 4月 ニッポン放送署名



SDGsをテーマにした番組を毎週放送

『知りたい！SDGs』

SDGsをテーマにしたレギュラー番組『知りたい！SDGs』を、2019年10月より放送しています。

<https://www.bs-fuji.tv/sdgs/pub/>

これから先の未来、自分たちの青い地球はどうなっていくだろう… 今、世界では温暖化、貧困、格差社会… 様々な地球規模の課題があります。「SDGsが掲げる17の目標」を、子どもや若者、高齢の方にもわかるよう、SDGsの基本理念や各目標をひとつひとつわかりやすく解説。また、課題解決に取り組んでいる事例も紹介しています。



番組ナビゲーター 曾田麻衣子

● BSフジ 毎週木曜
22:55～23:00放送



●SDGs勉強会を開催

SDGsに関する全社的な理解を深めるため、BSフジで働く全社員・スタッフを対象に勉強会を開催しました。「BSフジSDGsスポットCM企画」を募集し制作、放送しました。

これまで番組で紹介した人（抜粋）SDGsの目標別

目標1：セカンドハーベスト・ジャパン CEO/創設者
マクジルトン・チャールズ
目標2：ハンガー・フリー・ワールド 徳田由香
目標3：JICA地球ひろば 地球案内人 竹谷友里
目標4：公益社団法人 シャンティ国際ボランティア会 山室仁子
目標5：国際協力NGOジョイセフ 甲斐和歌子
目標6：国際NGO ウォーターエイドジャパン事務局長 高橋郁
目標7：バイオエナジー株式会社工場長 熊谷克巳
目標8：一般社団法人障がい者協会代表理事 熊本豊敏

目標9：井上石灰工業株式会社国際事業本部部長 佐々木明
目標10：AFRIKA ROSE代表取締役 萩生田愛
目標11：東京臨海広域防災公園副センター長 澤善裕
目標12：Toliuoオーナー 井上龍一
目標13：株式会社スーパーホテル 星山英子
目標14：宮城県漁業協同組合石巻地区支所 三浦雄介
目標15：都文館夢学園教諭 古澤勝志
目標16：弁護士（ミャンマー在住）/JICA 小松健太
目標17：鹿児島県大崎町役場住民環境課 東平正孝



誰一人取り残さないために…

「May I Help You?」キャンペーン

ニッポン放送ではSDGsに積極的に取り組むべく、開局65周年を機に「May I Help You?」キャンペーンをスタートしました。パーソナリティとリスナーの距離が近いラジオだからこそ、「どうかされましたか?」「お手伝いしましょうか?」等、家族やまわりの方に声をかけることの大切さを一緒に学び、考えていきます。2030年まで残り10年となった今だからこそ「地球」のことを考えようと、2020年3月28日には『なるほどSDGs ～10年後の未来へ～』と題し SDGsを楽しく、わかりやすく、親しみやすい形で伝え、「リスナーに学んでもらい、参加してもらう」特別番組を放送しました。 <https://www.1242.com/mihp/>



剛力彩芽さんと蟹江憲史・慶應義塾大学大学院教授

共通の活動

フジ・メディア・ホールディングス各社が
力を合わせて行っている社会貢献活動をご紹介します。

東京2020オリンピック・パラリンピックを応援

東京2020オリンピック・パラリンピックに向け、
地域とも連携しながら様々なレガシーを残せるような取り組みを始めました。

● 合同清掃活動が東京2020参画プログラムに！

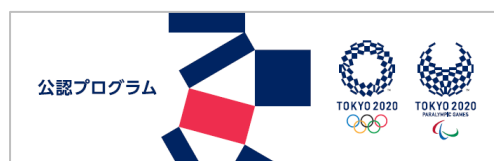


ホールディングスの“結束力”を発揮！



毎年3月・7月・10月にフジ・メディア・ホールディングス各社の有志が集まり、お台場エリアの清掃活動を行っています。この活動は2012年10月から始まり、これまでに22回実施。今ではすっかり定着し、参加者は毎回70人を超えています。そして、この活動がクリーンで快適な街づくりをめざす活動として「東京2020参画プログラム」に認証されました。

これを受けて、大会開幕予定日半年前となる2020年1月24日、競技会場が多く集まる臨海副都心エリアの清掃活動を行いました。フジテレビをはじめフジ・メディア・ホールディングス各社、東京臨海副都心まちづくり協議会、NPO等から108人が参加し、70リットルの袋27個分のゴミを回収して、街がスッキリきれいになりました。



■ オリパラをライトアップでアピール！

大会ブームアップのため、フジテレビ球体展望室をはじめ街全体で五輪マークの5色をあしらったライトアップを実施。



また、パラリンピックのシンボル「アギトスカラー」のライトアップも自由の女神像やパレットタウン大観覧車・東京ビッグサイトと連動して行いました。

■ 「みんなのメダルプロジェクト」に参加！

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の入賞メダルを使用済みの小型家電から製作するプロジェクトに参加。フジ・メディア・ホールディングス各社に呼びかけをし、不用になった携帯電話・デジカメ等の小型家電、放送関係機材等を寄付しました。



メダルプロジェクトへ寄付した総重量
12 t 896kg

視覚障害者のためのチャリティを45年間継続



●「第45回 ラジオ・チャリティ・ミュージックソン」

2019年のパーソナリティはKis-My-Ft2

「ラジオ・チャリティ・ミュージックソン」は、ニッポン放送が1975年から行っている目の不自由な方のためのチャリティ活動です。毎年クリスマス・イヴからクリスマスにかけての24時間の特別番組を中心に、ラジオを通じて募金を呼びかけるもので、2年連続でKis-My-Ft2がメインパーソナリティをつとめました。前回の募金額を上回った他、今世紀になっての最高募金額を2年連続で更新しました。



毎年各社でサポート！

フジ・メディア・ホールディングスでは、各社共通のCSR活動として、毎年このイベントのお手伝いをしています。今回もグループ内の12社から合わせて36人が街頭募金のお手伝いをしました。



東京丸の内 KITTE（キッテ）にて

寄せられた募金は、目の不自由な方が安心して街を歩くのに役立つ「音の出る信号機」の設置や、本を音声朗読した「声の図書」「立体コピー機」など多数の視覚障害者用教育機器などに使われます。

- 実施日：2019年12月24日正午～25日正午
- パーソナリティ：Kis-My-Ft2
- 募金受付期間：2019年11月1日～2020年1月31日

これまでに **3,183基**の
「音の出る信号機」が設置されました。

最終募金額 **9,057万 5,273円**

これまでの
合計金額 **46億7,205万3,451円**



世界の子どもたちの貧困解決に向けて

● FNSチャリティキャンペーン



FNSチャリティキャンペーンは、「世界の子どもたちの笑顔のために」をメインテーマに実施しているチャリティ活動です。フジテレビ系列各社及びBSフジが放送やイベントを通じて募金活動を行い、ユニセフ（国際連合児童基金）を通じて国際貢献を行ってきました。フジ・メディア・ホールディングス各社も募金活動に協力しています。46年に及ぶ活動の募金総額は43億円に達しており、アジア・アフリカ等世界の開発途上国の子どもたちのために役立てられています。

2019年度は、アフリカ東部・ウガンダ共和国の子どもたちを支援しました。ウガンダでは、エイズによって親を失ったエイズ孤児が56万人も暮らしており、貧困やいわれなき差別等に苦しんでいます。また、古くからの一種の慣習である児童婚が深刻な社会問題です。貧困家庭に生まれた女の子たちが、婚家から贈られる牛や羊等の家畜と交換のような形で、望まない結婚を強いられるケースが多々見られます。こうした状況を伝えるため、取材班は合計3週間にわたり現地を取材、情報番組『とくダネ!』で、5月20日・21日の2日間にわたって放送し、支援を呼びかけました。また全国のフジテレビ系列局とともに様々な募金活動を行いました。



2019年度の最終寄付総額 **3,854万 7,613円**

集まった募金は公益財団法人日本ユニセフ協会を通じて、ウガンダ共和国の子どもたちの支援に活用されます。

● 令和元年台風19号の被災地支援のため「サザエさん募金」を実施



©長谷川町子美術館

フジネットワークでは令和元年台風19号及び10月24日からの大雨の被災地の復興を応援するため、サザエさん募金を実施し(10月15日～11月30日)、フジ・メディア・ホールディングス各社の協力も得て支援を募りました。

皆様から寄せられた募金総額 **2億2,065万1,726円**を、義援金として日本赤十字社を通じて被災地に送られました。

【ディノス・セシール】

「セシール」のお客様からのポイント募金(56万5,847円)と、グループの社内募金(45万9,536円)、並びにディノス・セシールからの寄付金を加え、400万円を「フジネットワークサザエさん募金」へ。

被災地に子どもたちが誇れる桜の名所を…

● 「ふくしま浜街道・桜プロジェクト」を継続支援

地震や津波、更に放射能被害を受けた福島県で、「30年後に子どもたちが誇れる桜並木を」との思いからスタートした「ふくしま浜街道・桜プロジェクト」に、フジ・メディア・ホールディングス(FMH)各社は2013年度から協賛しています。2019年度はディノス・セシールの顧客や、FMH各社等から合わせて桜145本分の寄付をし、これまでの植樹本数は1,320本になりました。



2020年2月15日相馬市で桜の苗木を植樹



東北に春をお届けします。株式会社 ディノス・セシール

ディノス・セシールの復興支援活動「東北に春をお届けします。」では、被災地とそこに暮らす子どもたちの未来に向けた活動として、この桜植樹と教育支援を実施しています。教育支援については、カタログ「ディノス・オブ・ライフ」からのお買いもの1回につき10円をこの活動に充てさせて頂き、東北の未来を担う子どもたちに対して、学びと自立の機会を作る活動を展開する「ハタチ基金」(運営団体:公益社団法人ハタチ基金)に58万9,640円を寄付しました。

児童養護施設で暮らす子どもたちに

■ ブックフォースマイルへ寄付

書籍の寄贈を通じて児童養護施設から社会へ巣立つ子どもたちを応援しています。不用となった書籍を(株)パリュブックスへ売却。売却代金は認定NPO法人ブリッジフォースマイルへ寄付され、児童養護施設を巣立つ子どもたちの支援に充てられています。

2019年度は、6社から合計**3,608冊**が寄付され、**20万1,124円**が支援にまわりました。

※2014年度からの合計 23,906冊 寄付総額 114万514円



※単行本15冊で進学を希望する若者1人に1時間分の勉強時間をプレゼントできます。(時給750円換算)

省エネルギーの取り組み

■ 全社共通ポスターによるクールビズ・ウォームビズ

毎年夏のクールビズと冬のウォームビズの共通ポスターを作成し、各社に掲示しています。



■ カレーde チャリティ♪

グループ各社による清掃活動の後に本場のスパイスを使ったカレーを食べて疲れを癒しました。このカレーは認定NPO法人ESAアジア教育支援の会の特製スパイスを使用しており、購入することでバングラデシュやインドの子どもたちの教育支援につながります。

[2019年7月10日]

顕彰制度を通じて豊かな社会を

フジサンケイグループの取り組み

● 高松宮殿下記念世界文化賞

「世界の文化芸術の普及・向上に広く寄与したい」という、故高松宮殿下のご遺志に基づいて、公益財団法人 日本美術協会によって1988年に創設された「高松宮殿下記念世界文化賞」。フジテレビは趣旨に賛同し、創設以来、社を挙げて支援しています。

絵画、彫刻、建築、音楽、演劇・映像の5部門にわたり、これまで世界のそうそうたる方々が受賞されています。第31回の授賞式は、2019年10月16日、常陸宮同妃両殿下をお迎えして東京・元赤坂の明治記念館で行われ、常陸宮殿下から受賞者に顕彰メダルが授与されました。創設以来の受賞者は30ヶ国、160人にのぼっています。



第31回高松宮殿下記念世界文化賞 受賞者

絵画部門	ウィリアム・ケントリッジ氏
彫刻部門	モナ・ハトゥム氏
建築部門	トッド・ウィリアムズ&ピリー・ツイン氏
音楽部門	アンネ=ゾフィー・ムター氏
演劇・映像部門	坂東玉三郎氏
若手芸術家奨励制度 デモス	(フィルハーモニー・ド・パリ) = フランス



©日本美術協会/産経新聞

■『高松宮殿下記念世界文化賞特番』を放送

フジテレビ 2019年10月30日 24:25～24:55 / BSフジ 2019年11月10日 17:00～17:30

※詳しくは世界文化賞公式サイトをご覧ください。 <https://www.praemiumimperiale.org/ja/>

● 地球環境大賞

「地球環境大賞」はフジサンケイグループが1992年に創設した産業界を対象とする顕彰制度です。WWF（世界自然保護基金）ジャパンの特別協力を得て、「産業の発展と地球環境との共生」をめざしています。

第28回の授賞式は、2019年4月22日、秋篠宮皇嗣同妃両殿下をお迎えして、東京・元赤坂の明治記念館で行われました。今日では日本を代表する環境顕彰制度として広く社会に定着しており、これまでに約280の企業や団体が受賞しています。フジテレビは、フジサンケイグループとともに番組やHPでの発信を通して「地球環境大賞」をサポートしており、「環境」と「経済」そして「社会」との調和による豊かで活力あふれた国づくりの実現に役立ちたいと考えています。

第28回 地球環境大賞 大日本印刷株式会社

環境問題に貢献する「DNP多機能断熱ボックス」の開発



東京・元赤坂の明治記念館で行われた授賞式



※詳しくは地球環境大賞公式サイトをご覧ください。 <https://www.fbi-award.jp/eco/>

※地球環境大賞2019特別番組『外国人に聞いてビックリ！世界に学ぶ環境対策最前線』を放送（20ページ参照）

各社の活動

フジ・メディア・ホールディングス各社が行っている社会貢献活動をご紹介します。

子どもたちのために Support for the Next Generation

各社本業を活かした出前授業や“体験イベント”を実施

● 「あなせん」プロジェクト

フジテレビ / 扶桑社

“伝えるプロ”が子どもたちの“伝え合う力”をサポート

「あなせん」（アナウンサー先生）は、2005年にアナウンサーが主体となってスタートしたコミュニケーション能力向上のための出前授業です。メールやSNSでのやりとりが多くなった今、改めてFace to Faceで伝え合うことの楽しさや大切さを子どもたちに教えています。キャリア教育の一環としてテレビ局の仕事を知ってもらう機会も提供しています。2019年度ははじめて海外の日本人学校でも実施しました。



プロジェクト概要

対象：小学校3年生～6年生

講座内容：[スピーチ][インタビュー][音読]

実施エリア：関東1都6県

「あなせん」公式サイト
<https://www.fujitv.co.jp/csr/anasen/>



オリジナルテキスト
は扶桑社と協働して
制作

2019年度**17**校で**2,514**人が受講
(上海日本人学校 虹橋校を含む)
活動開始から現在まで

のべ**1万9,500**人(242ヶ所)
の子どもたちと触れ合ってきました。
(2020年3月末現在)

● 食育出前授業「ハロー！どっこくん」

フジテレビ / エフシージー総合研究所

季節の食材をバランスよく食べることや運動の大切さを教える食育出前授業を行っています。アナウンサーによる大型紙芝居の読み聞かせや、うんちのキャラクター「どっこくん体操」等で構成された約40分の楽しいプログラムで、2010年にエフシージー総合研究所をはじめとするフジ・メディア・ホールディングス各社が協働してスタート。被災地を含む全国各地で展開しています。



うんちの
キャラクター
どっこくん

©フジ・メディア・ホールディングス / CSR2010



「ハロー！どっこくん」公式サイト <https://www.fujitv.co.jp/csr/dokko/>
「どっこくん体操」をYouTube公開 <https://www.youtube.com/watch?v=zv5BQKpw7M>

2019年度は、**11**ヶ所に伺い

約**1,230**人の子どもたちと出会いました！

2010年からこれまでに

189ヶ所に伺い 約**22,530**人を対象に実施
(2020年3月末現在)

子どもたちに本物の体験を

●春と夏にテレビのお仕事体験を実施

フジテレビ / フジ・メディア・テクノロジー

春休みに実施した「フジテレビで遊ぼう！」では、「あなせん」やテレビ技術体験、中継車試乗体験、社内見学ツアー等テレビ局ならではの催しを行い、大勢の方に楽しんでもらいました。また夏休みには「縄電車deのぞいてみよう！フジテレビ」を開催。社内見学ツアーでは『バイキング』のスタジオで本物の機材に触れる等、テレビ局のお仕事を体験して頂きました。

〔フジテレビで遊ぼう！ 2019年4月5日
縄電車deのぞいてみよう！フジテレビ 2019年8月9日・19日〕



●職業体験型教育プログラム

「フジテレビのお仕事！」が10周年

「フジテレビのお仕事！」は専用スタジオでプロ用放送機材を使用して番組を制作することを通して、メディアリテラシーやチームワークの大切さ等を学ぶ職業体験型教育プログラムです。小中高生向けのプログラムに加え、大学生向けのキャリア教育や海外ロケ体験、企業・団体向けの人事研修やオリエンテーションプログラム等も展開しています。

[2019年度末時点のべ904団体 体験者数9万5,951人]

フジテレビ



●鴨川シーワールド「ウミガメ移動教室」

鴨川シーワールドでは、2002年より千葉県鴨川市の東条海岸を中心に、ふ化に適さない場所に産卵されたアカウミガメの卵を保護し、生まれた子ガメを自然に近い形で放流する活動を行っています。この保護活動から得た知識を飼育員が伝え、実際に子ガメを観察してもらうことで、子どもたちに自然保護への理解や命の大切さを伝えています。

[2019年度千葉県鴨川市・勝浦市の学校や公共施設24ヶ所を訪問]

グランビスタ ホテル&リゾート



●「エコキッズ探検隊2019」

子どもたちが夏休みにいきいきと遊びながら学び、作り、様々な体験ができる「エコキッズ探検隊」に協賛しています。2019年は、産経新聞社を訪問して新聞づくりについて学び、実際に取材した「ネタ」をつかってオリジナル環境新聞を作りました。また、浴衣の着付け教室やウミガメ移動教室、打ち水など盛りだくさんの内容で子どもたちに楽しんで頂きました。この活動は、大手町・丸の内・有楽町エリアの企業がサポートしています。

[2019年8月7日 対象：小学校4～6年生20人]

サンケイビル



●『グータッチ』

一生懸命打ち込んでいるのに結果が出せない子どもたちのところに、その道のエキスパートが訪れ、徹底的にサポート。夢を追いかける子どもたちの成長を伝える応援ドキュメントバラエティを放送しています。[毎週土曜 9:55～10:25放送]

FCC



若者の未来を応援！

● 「ドラマ甲子園」

フジテレビ

2014年からスタートした高校生のための脚本・演出家発掘プロジェクト。大賞作品は、執筆した高校生本人の演出でテレビドラマ化されます。若い才能を応援し、次世代クリエイターの発掘と育成をめざして、これからも高校生たちを支援していきます。



第6回「ドラマ甲子園」大賞受賞作品『受験ゾンビ』は、受験を控えた高校3年生の夏休みに、文化祭の準備のため主人公のあかりが登校してくるところから始まります。次々にゾンビ化していく生徒たちを描きながら、受験に対する悩み、苦しみ等のあらゆる感情を切り取ったリアルな現代の高校生たちの人間ドラマ。また作品が出来上がるまでの監督に密着したメイキング番組もCS放送&FODで配信し話題になりました。

〔ドラマ本編：2019年10月20日 23:00～24:00 CS放送
メイキング：2019年 9月20日 23:30～24:00 CS放送〕

● 「ヤングシナリオ大賞」

ドラマ制作における新たな才能を発掘する「ヤングシナリオ大賞」。31回目となる今回の応募総数は1,733編で、大賞を受賞したのは中村允俊さんでした（作品『パニックコマーシャル』）。これからも次世代のドラマと一緒に作り上げる才能を発掘すべく、この懸賞制度を継続していきます。

〔2019年12月16日 25:15～26:15 放送〕



● BSフジ×武蔵野大学寄附講座「未来型都市とメディア」

BSフジ

東京オリンピック・パラリンピックを視野に、有明にある武蔵野大学で連携講座の運営を柱とした臨海地域の町づくりを模索しています。BSフジを窓口、経営から技術、ドラマ制作、CSR活動まで、各担当者が「メディアの現状」や「未来に向け変貌する東京と世界の環境予測」等について講義しました。FMHのメディア論構築も見据えながら、包括担当（客員教授）とともに4年間で約400人の学生に講義を行い、好評のうちに5年目を迎えます。

〔2019年9月25日～2020年1月29日 毎週水曜 全16回〕



● 難病と闘う子どもたちを支援 「そらぶちキッズキャンプ」

フジテレビ / サンケイビル / エフシージー総合研究所

「そらぶちキッズキャンプ」の活動趣旨に賛同し、2009年からキャンプでの朗読会や食育イベントを開催しています。2020年3月1日の東京マラソンに向けて、東京サンケイビルメトロスクエアで写真展を開催しました。〔2020年2月25日～3月7日〕



公益財団法人「そらぶちキッズキャンプ」とは

北海道滝川市にある医療施設を完備したキャンプ施設。小児がんや心臓病等の難病と闘う子どもたちやその家族が、自然の中で笑顔で楽しい時間を過ごす場を提供しています。



災害復興支援・防災 Support for Disaster-affected Areas

オリジナルの被災地復興支援活動を展開

●「ずっとおうえんプロジェクト」

フジテレビ



フジテレビでは、2011年の東日本大震災発生後から被災地復興支援活動を継続して行っています。被災地を「ずっと」忘れないという強い思いと、エンターテインメント企業ならではの「支援力」で、“新たなコミュニティづくり”のお手伝いをしています。

2019年度は、9月に発生した台風19号で被害を受けた栃木県小山市の幼稚園で食育出前授業、福島県いわき市、郡山市の保育園でクリスマス会を実施しました。この他、2018年西日本豪雨で被災した広島県呉市で『サザエさん』上映会、東日本大震災の被災地、岩手県大船渡市で食育出前授業を行うなど、各地の要望に応じてイベントを開催しました。



2019年度実績 7ヶ所 約1,090人を対象に実施

2011年
からの累計209ヶ所 約25,790人を対象に実施
(2020年3月末現在)

●「こども笑顔プロジェクト」

「こども笑顔プロジェクト」は、フジテレビ美術制作局と美術関連会社からなる「八美会」が、“ものを創る楽しさ”を子どもたちに体験して頂き、笑顔になってもらいたいと2013年に立ち上げた被災地支援活動です。2019年は10月5日に「ふたばワールド2019 in Jヴィレッジ」（福島県双葉郡）で開催し、子どもたちがアニメのキャラクターに扮装したり、テレビ美術ならではの機器類を使ってゲームを体験するなど、多くの人が笑顔を見せてくれました。

[2019年10月5日開催]



フジテレビ / フジアール



● 東北・みやぎ復興マラソン2019



東北・みやぎ復興マラソン2019

10月12日・13日に開催を予定していた「東北・みやぎ復興マラソン」は、台風19号の影響で中止となりましたが、マラソンのエイドステーションで使用するはずの提供物を支援物資として宮城県・福島県内の避難所及び役場に提供しました。



● 減災絵本「リオン」読み聞かせキャラバン

仙台放送

2016年から仙台放送のアナウンサーが減災につながる読み聞かせを実施。地震や津波、大雨などの災害への備えについて子どもたちに問いかけながら読み聞かせています。2019年度は4回、これまでに40回実施しています。



伝える責任～人々の命を守るために、テレビができること～

公共性の高いメディア企業にとって、震災などの災害報道は重要な「使命」と認識し、常に「迅速」かつ「正確」な報道を心がけています。国民の命を守るための報道、即応体制の構築、災害の記憶を風化させないための継続的な報道などに努めています。

フジテレビ

●『“死者ゼロ”を目指せ～デジタル新時代の情報発信とは～』

災害報道ではメディアがもっと連携するべきではないか。震災から10年となる2021年に向け、フジテレビはNHK、ヤフーと共同で、災害報道について考える取り組みを行いました。

NHKで放送した討論番組では、3社の災害担当者に加え被災者でもある地元メディアも参加。被災者を救うために必要な情報とは何か、これまでテレビでできなかったことへの真摯な反省も交えて議論が進み、具体的なメディア連携の在り方も提案することができました。

[2020年3月8日 15:00～16:00 NHK総合テレビ放送]



●『わ・す・れ・な・い』

あの震災の悲劇と教訓、犠牲者、被災者の方々を“忘れてはいけない”という思いで、これまで20本のドキュメンタリーと検証報道を送り出してきた『わ・す・れ・な・い』シリーズ。東日本大震災から9年が経過した2020年は2つの企画を放送しました。

- 被災当時は小学生だった宮城と福島の子どもたちの“心の成長”を追った『わすれない～震災を伝えてくれた彼らの9年～』

[2020年3月8日 18:00-19:55 BSフジ放送]

- 地震と津波からの避難行動を再検証した『わ・す・れ・な・い～死者をゼロにする情報とは～』

※NHK、ヤフーとの共同企画の一環

[2020年3月11日 15:50-16:50 フジテレビ放送]



フジテレビ / BSフジ

●東日本大震災 特別企画『ともに』

震災直後から放送をはじめ、2020年3月までに108回放送。番組では、宮城の今を生きる人々、「復興」を支える人々やその活動を紹介しています。被災した人たちが今どんな気持ちで、何を見つめているのか。日常を取り戻すために、どんな人たちがどんな想いで取り組んでいるのか。その道のりを「ともに」辿っていきます。

[月1回 土曜日放送]



仙台放送



●『明日への羅針盤～震災から9年 復興の現在地～』

岩手、宮城、福島のFNN系列3局で2017年から合同特別番組を放送しています。4回目の2020年は、復興五輪と称される東京オリンピック・パラリンピックの聖火リレーにまつわる被災3県の象徴的な場所や人を取材。聖火リレーの出発地・福島県の「ヴィレージ」、復興の火を運ぶ岩手県の三陸鉄道や、聖火到着地の宮城県松島基地から生中継し、五輪・聖火リレーへの期待感を伝えました。また震災と原発事故から9年が経ち、何が変わったのか、被災地の現状を確認し、地域の課題を共有しました。[2020年3月8日16:00～17:25放送]

● 『バイキング』 坂上忍 お手伝いの旅



フジテレビ

『バイキング』（月～金11:55～13:45放送）では、坂上忍さんが東北の被災地を訪問して現地でお手伝いをする旅を5日間放送。4年目となる今回は宮城県に赴き、高齢化と働き手不足に悩む松島の漁港での「かきの水揚げ」を手伝ったり、サンドウィッチマン伊達みきおさんの母校をサプライズ訪問。更には気仙沼でフカヒレの加工や日本酒の仕込み・オリジナルラベルの製作をお手伝い。そして松島の遊覧船に乗船し、地元企業の方々と一緒に名産品を味わうなど、地元の方々と熱い交流をしました。〔2020年3月9日～13日の5日間放送〕



● 『バイキング』 被災地・千葉を坂上忍自ら取材・継続放送



MCの坂上忍さんと榎並大二郎アナが、台風15号の被害が大きかった富津市金谷地区で被害状況取材しつつ、災害ゴミを運び出すお手伝いをしたり、公民館で炊き出しを行うなど、住民の方々との交流を深めました。更に4ヶ月後には、坂上さんと榎並アナが再び取材に訪れ、未だ復旧のめどが立たない被害の現状を改めて伝えました。

〔2019年9月23日・2020年2月3日放送〕

BSフジ

● 『東北魂TV2019特別編 全力応援旅SP in 千葉・房総半島』

『東北魂TV』は、“笑いで東北を、日本を元気に！”をテーマに、BSフジが2011年10月から継続して放送している番組です。サンドウィッチマンやマギー審司さん、鳥居みゆきさん、狩野英孝さんなど東北出身のお笑い芸人が出演し、2019年12月には、猛威をふるった台風15号、19号の被害を受けた千葉県沿岸部から全国へ元気を届ける旅番組をスペシャルとして放送。旅を仕切るのは千葉県出身の小島よしおさん。千葉ならではの美味グルメと観光スポットを紹介しました。

〔2019年12月29日放送〕



● 『ニッポン放送千葉情報ネットワーク』

ニッポン放送

台風15号で大規模な停電が続く千葉県内で、不自由な生活を強いられている被害エリアの住民のため、2019年9月12日から千葉県内の暮らしが一定レベルに回復した9月24日までの期間、各ワイド番組内の情報コーナーで午前午後1日2回「今知りたい情報」「役立つ情報」をお届けしました。また、台風15号の関東直撃から1ヶ月を迎えた10月9日には、各ワイド番組で、千葉エリア各所からの中継レポートを行いました。

「台風15号被害義援金」を募りました。（2019年9月18日～10月17日実施）

お寄せ頂いた義援金389万9,361円を千葉県災害対策本部に寄付しました。

● 『阪神・淡路大震災から25年 あの日の経験をわすれないために…』 ● 『東日本大震災から8年～そのときラジオは…』

「安心報道」「救命報道」を災害報道の基本理念としているニッポン放送では、阪神・淡路大震災から25年となる2020年1月17日、各番組を縦断して「防災の啓蒙」を中心に番組を放送。地震に備える一口メモなどを伝えました。また、東日本大震災から8年となる3月11日には、東北被災地の現状と課題を取材レポートし、災害時にラジオは何を伝えるべきかを考える特別番組を放送しました。

共生社会をめざして For an Inclusive society

放送を通じたパラスポーツを支援

● 『パラ☆DO! 真ん中』 & 『パラ☆DO! 』

フジテレビ



『パラ☆DO!』ポータルサイトでは、アーカイブ、SNS、ライブ配信なども展開
<https://www.fujitv.co.jp/sports/parado/>

障害者と健常者が相互に尊重し合える「共生社会」の実現に向けて、パラスポーツを応援しています。2020年3月28日（27:15～28:15 関東ローカル他）に放送した特別番組では、外務省と連携し、東京2020聖火リレー公式アンバサダー田口亜希さんとバングラデシュやラオスを訪問、パラスポーツの普及や理解促進につながる番組を放送。また、4月からはレギュラー番組『パラ☆DO!』（毎週土曜15:25～15:30放送 関東ローカル）を通じて、パラアスリートのみならず、パラ競技を支える人々や団体を紹介しています。

● 「HANDSIGN」手話ダンスを広げる活動を継続

歌、ダンス、手話という新しい表現方法で伝える手話パフォーマー「HANDSIGN」は、手話ダンスを通じて若い世代に手話を広める普及活動を、地元神奈川県を中心に全国各地で行っています。2019年は兵庫県豊岡市のすべての小学校を訪問し、手話の魅力を伝えました。また、東京都パラスポーツ応援プロジェクト「TEAM BEYOND」のオフィシャルメンバーとして、2019年8月25日に代々木公園で行われた「東京2020 パラリンピック競技大会1年前キャンペーン」のカウントダウンイベント「みんなのスポーツ×ファンフェスティバル」に出演しました。手話が言語として当たり前存在する社会をめざして活動を継続しています。

フジバシフィックミュージック



※フジバシフィックミュージックは、企業としても「TEAM BEYOND」のメンバーです。

● 『アキレアの橋～遙かなる東京へ～』

BSフジ



オリンピック・パラリンピックをめざすアスリートや関係者たちを長い歳月をかけて追いかけています。2月23日の放送では、パラ陸上の高田千明、山本篤、成田緑夢の3人のアスリートに密着。来る東京2020パラリンピックに向けて、闘志を燃やし、練習に励む姿をドキュメントで伝えました。[2020年2月23日 18:00～19:55 放送]

● 『ニッポンチャレンジドアスリート』

ニッポン放送

障害者スポーツの魅力伝え、応援・啓蒙するラジオ番組を2015年4月より放送しています。スポーツに打ち込み、磨き抜かれた技で、観る人を感動・興奮させるアスリートたち。障害を持ちながら、国際舞台をめざすアスリートや彼らを支える人の活動を紹介することで、共生社会について考えるきっかけを提供しています。

[毎週月曜～金曜 13:42～13:47 放送]



番組公式サイト: <http://www.1242.com/challenged/>

あらゆる人にコンテンツを楽しんでもらうために

● コンテンツにおけるバリアフリー

■ 放送におけるバリアフリー

フジテレビ / 共同テレビ / FCC / フジミック

制作した番組コンテンツをより多くの方に届けたい、そんな思いから、字幕放送、解説放送、字幕データ放送を、共同テレビ、FCC、フジミックとともに制作しています。また、2019年度はフジテレビが公開したすべての映画に字幕と音声ガイドを付与しました。

■ 字幕放送

フジテレビでは、6時～24時のすべての収録（生放送以外）番組に字幕を付与しています。2018年度の、字幕付与可能時間に対するフジテレビの字幕付与率は100%、総放送時間に対する付与率は59.8%でした。

■ 解説放送

視聴覚障害者の方々にもテレビを楽しんで頂くために副音声を使って画面の解説を行う解説放送を行っています。場面設定や出演者の動きなどをナレーターが簡潔に説明しています。2018年度の付与可能時間に対するフジテレビの解説放送の付与率は15.1%、総放送時間に対する付与率は5.7%でした。

■ 字幕データ放送

どの地域でも字幕放送を視聴できるよう、番組素材に字幕放送データを付与して各系列局に供給。番組素材をデータファイル化して字幕を同梱し、各局の放送時間にオンラインで配信しています。



ニュースなどの生放送番組にもリアルタイムで字幕を付けています。

● 手話放送

『テレビ寺子屋』
[毎週土曜4:52～5:22]

● 解説放送付番組

『ワンピース』
『はやく起きた朝は…』
『ちびまる子ちゃん』
『サザエさん』
『MUSIC FAIR』
単発ドラマや邦画等

■ 映画におけるバリアフリー

フジテレビ

2019年度に公開したすべての映画に日本語字幕を付けました。（後日発売されるDVD・Blu-rayにも字幕を付与）また、視覚障害者のお客様にも映画をお楽しみ頂けるようすべての映画に《音声ガイド》（映画の視覚的な情報を補うナレーション）を付け、バリアフリー上映も行いました。

2019年度に音声ガイド付き上映を行った作品

『コンフィデンスマンJP ロマンス編』『記憶にございません！』『劇場版ワンピーススタンピード』『ヲタクに恋は難しい』『午前0時、キスしに来てよ』『マチネの終わりに』『一度死んでみた』



「コンフィデンスマンJP ロマンス編」
©2019「コンフィデンスマンJP」製作委員会



「記憶にございません！」
©2019フジテレビ 東宝



「劇場版ワンピーススタンピード」
©尾田栄一郎/2019「ワンピース」製作委員会



「ヲタクに恋は難しい」
©2020映画「ヲタクに恋は難しい」製作委員会



「午前0時、キスしに来てよ」
©2019映画「午前0時、キスしに来てよ」製作委員会



「マチネの終わりに」
©2019「マチネの終わりに」製作委員会



「一度死んでみた」
©2020松竹フジテレビジョン

心も身体も健康に！

●『にっぽんの要～わかる・かわる 介護・福祉～』

サンケイビルテクノ/BSフジ

4人に1人以上が高齢者という日本。介護や福祉の現状を伝えつつ、日本の未来を考える番組を5回にわたって放送しました。1～4回では、未来を担う若者たちが実際の介護や福祉の現場を体験。最終回ではその経験を活かし、この分野に興味を持ち実際に大学で学んでいる学生や、これまで一切介護・福祉に触れてこなかった学生たちが、介護・福祉に関するイベントを開催しました。

※「介護のしごと魅力発信事業」への取り組みの一環でサンケイビルテクノと協働

[2019年11月～2月 14:00～14:30 放送 全5回]



司会：要潤 / 上条百里奈（介護福祉士・モデル）

●ピンクリボン運動への賛同

ディノスの「ディランジュ」、セシールの「セシレーヌ」と、長年にわたりインナーブランドを展開してきたディノス・セシールは、乳がんの早期発見・早期治療の大切さを伝える「ピンクリボン」を応援しています。年間を通じて各ブランドの商品のお買い上げに応じた寄付や、ピンクリボン月間である2019年10月1日～31日にはキャンペーンを行い、公益財団法人日本対がん協会乳がんをなくす「ほほえみ基金」へ寄付しました。

【寄付額】ディノス：43万7,890円、セシール：83万2,413円 合計127万303円

ディノス・セシール



●第11回港区文化芸術フェスティバル

SING ALONG TOGETHER 企画・運営サポート

ポニーキャニオン

区民参加型のイベントとして、11回目を迎えた港区文化芸術フェスティバル。区民がプロのアーティストの指導のもと、2ヶ月に及ぶ練習を行い、サントリーホールで公演するという地域活性化事業です。ポニーキャニオンは趣旨に賛同し2015年度より企画、ゴスペルを基調とした「歌」を主軸に企画制作を行い、キャスティング、運営までトータルで支援しています。2019年度は残念ながら中止となりましたが、ぎりぎりまで練習を続け、区民との共生、持続可能な芸術活動を行うことができました。



クオラス

●厚生労働省ハラスメント対策
ポータルサイトの企画・運営

ハラスメントで悩んでいる人や、社内でハラスメントが起きた場合の対応策などをまとめた総合情報サイト「あかるい職場応援団」の企画・運営を行いました。



扶桑社

●健康な体づくりに役立つ本を発行

健康に対する意識が高まる中、「くびれ母ちゃんのゆるめるカラダ」(村田友美子著)や「超ラジ体操」(谷本道哉著)など、理想の身体に近づけるための効果的な方法を伝授する動画及びDVD付書籍を発行しました。



地球環境のために For Environment

環境をテーマにした番組を放送

気候危機と言われる中、2019年度は数々の番組を通じて気候変動などについて伝えました。

● 『環境クライシス』 が3年連続COPで上映

フジテレビ



2017年にスタートしたドキュメンタリー番組『環境クライシス』は、世界で急速に進む気候変動をテーマに過酷な生活環境を強いられている人々取材しています。豪雨による都市水害・洪水被害にさらされているインドネシアの“環境難民”の生活に密着した『環境クライシス3～水没するアジア巨大都市の環境難民～』（2019年3月23日15:30～16:30放送）が、2019年12月マドリードで開催されたCOP25のジャパンパビリオンで上映されました。当番組がCOPで上映されるのは2017年、2018年に続いて3回目です。

● 『環境クライシス』 がレギュラー番組に



北海道 上川郡 美瑛町 撮影：中西敏貴

気候変動による異常気象。その影響は日本にも出始めています。土砂災害等によって美しい景観は失われ、野生動物や昆虫は姿を消し生態系にも変化が起きています。そんな自然の変化を見つめてきた写真家たちとともに、次代へ受け継ぐべき日本の風景を紹介するとともに、目の前で起きている気候変動の影響や未来へのリスクをレギュラー番組で伝えました。

[2020年1月～3月 毎週火曜 22:54～23:00 放送（関東ローカル）]

● 『アースウォーカー 洪水緊急事態！ 水の真実を解き明かす滝川クリステルの大冒険』

滝川クリステルさんが生命の多様性と神秘に触れる大型ドキュメンタリーの10作目を放送しました。日本では2019年も台風被害が相次ぎました。地球で今、何が起きているのか？ヒマラヤ、アマゾン、グレートバリアリーフ等、数々の冒険を改めて紐解き、水と地球と生態系の真実を解き明かしました。[2019年12月31日 5:55～7:00 放送]



● 地球環境大賞2019特別番組

フジテレビ / BSフジ

『外国人に聞いてビックリ！世界に学ぶ環境対策最前線』

「産業の発展と地球環境の共生」に貢献した企業や団体、地方自治体などを顕彰してきた地球環境大賞（10ページ参照）の特別番組。受賞企業の取り組みの紹介とあわせ、SDGs（持続可能な開発目標）国際ランキング3年連続1位に輝くスウェーデンを西山喜久恵アナが現地取材。ストックホルム郊外の最先端環境都市のシューターによるゴミ収集システムや、再利用することでゴミ自体を減らす取り組みを詳しく紹介しました。

〔フジテレビ（関東ローカル）2019年6月22日 15:30～16:30 放送〕
〔BSフジ 2019年6月30日 14:00～15:00 放送〕



社内の意識を高めるため、西山アナによる取材報告会も実施しました。

各社の本業を通じた環境への取り組み

● ディノス・セシール

商品を送る際に再配達を減らす取り組み

ディノス・セシール

通信販売事業を行うディノス・セシールは、配送の効率化をめざした取り組みを進めています。その中で「不在再配達」の削減は大きなテーマであり、受注時にお届け時間帯の指定を承る事はもちろん、ディノスではコンビニエンスストア店頭での受け取りサービスや、一部の地域で早朝や深夜の受け取りが可能となる対応を進めています。また、セシールでは、小型商品についてお届け時に判取り不要なポストイン配送を導入しており、更に梱包資材のダウンサイジングも進めています。受け取り方法の多様化は、お客様の利便性向上だけでなく、輸送効率の改善や省資源化など、環境負荷の低減にもつながっています。



● ニッポン放送木更津太陽光発電所

ニッポン放送

ニッポン放送では、1990年比温室効果ガス排出量 25%削減のための国民運動「チャレンジ25キャンペーン」～低炭素社会をめざす「Fun to Share」に参加し、地球温暖化防止に努めています。2013年には、木更津送信所に大規模な太陽光発電システム（メガソーラー）を設置し、同年10月1日より営業運転を開始。これにより年間発電量はおよそ2,480MWhとなり、推定で年間1,388tのCO₂削減につなげるなど、自然エネルギーの普及・拡大や社会全体の環境負荷低減に貢献しています。



● 本町サンケイビル

サンケイビル

国土交通省「サステナブル建築物等先導事業」に採択

2021年8月竣工予定の「本町サンケイビル」（所在地：大阪府大阪市中央区本町）は、国土交通省よりCO₂の実現性に優れたリーディングプロジェクトとして「サステナブル建築物等先導事業（省CO₂先導型）」に採択されました（2019年8月）。先導的な技術の普及啓発に寄与する西日本エリアの新たな拠点ビルとして、地域をリードしていきます。



<取り組み例>

- 高い個別制御性と省エネ性能を実現する水冷熱源システムの採用
- 普及型技術を組み合わせて、一般建物と比較して40%エネルギー消費量を削減するZEB Orientedを達成（高顕熱空調と直膨式全熱交換器、CO₂濃度による外気取り入れ量制御）

● 廃材処理を通じた環境への取り組み

フジテレビ / フジアール

番組セットなどを廃棄する際、処理を大道具制作会社に委託せずに、全番組の廃材をまとめて廃棄事業者へ直接委託する「一括処理」を行っています。この取り組みは2010年以来続けられていて、排出事業者としての責任を全うすると同時に、リサイクル率向上と処理費用の低減につなげています。

マネジメント体制 Management

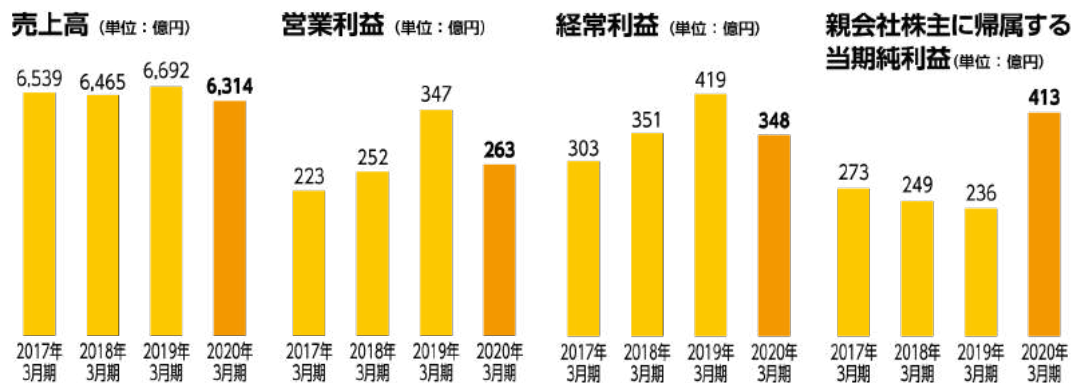
フジ・メディア・ホールディングスのコーポレート・ガバナンス・内部統制・コンプライアンスにつきましては、以下のホームページのマネジメント体制をご覧ください。

- コーポレート・ガバナンス <https://www.fujimediahd.co.jp/corporate/governance.html>
- 内部統制 <https://www.fujimediahd.co.jp/corporate/governance1.html>
- コンプライアンス <https://www.fujimediahd.co.jp/corporate/compliance.html>

財務サマリー Financial Summary

● 業績ハイライト [平成31年4月1日 - 令和2年3月31日]

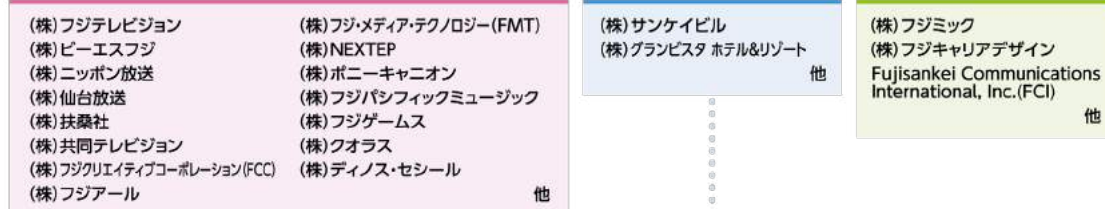
- ポイント**
- 売上高は、メディア・コンテンツ事業、都市開発・観光事業がともに減収となり、全体で減収。
 - 営業利益は、メディア・コンテンツ事業、都市開発・観光事業がともに減益となり、全体で減益。
 - 経常利益は減益、親会社株主に帰属する当期純利益は増益。



● セグメント別売上高構成比 (%)



組織概略



主な子会社の業績 (単位: 百万円)

	フジテレビジョン		BSフジ		株式会社ポニーキャニオン		株式会社ディノス・セシール		株式会社サンケイビル	
	前期	当期	前期	当期	前期	当期	前期	当期	前期	当期
売上高	267,970	255,523	18,455	17,920	36,061	40,977	107,881	104,899	88,057	72,213
営業利益	10,213	7,160	2,200	1,705	422	1,836	855	449	15,990	13,402

関連会社 (株)産業経済新聞社、(株)フジランド、日本映画放送(株) 他

※財務情報の詳細は、当社ホームページの株主・投資家情報をご覧ください。
<https://www.fujimediahd.co.jp/ir/presentation.html>



会社概要

商号	株式会社フジ・メディア・ホールディングス FUJI MEDIA HOLDINGS, INC.
事業内容	認定放送持株会社
事業所	本社 〒137-8088 東京都港区台場2丁目4番8号
設立	1957年11月18日
資本金	1,462億35万円
連結従業員数	7,518名（2020年3月末時点）
代表者	代表取締役会長 兼 CEO 宮内 正喜 / 代表取締役社長 兼 COO 金光 修